

令和4年度（2022年度）公社等経営評価書

一般社団法人 青森県畜産協会

公益法人等用

1 法人の概要

基準年月日
(基本情報に係る基準日) 令和4年7月1日

法人名	一般社団法人 青森県畜産協会	所管部課名	農林水産部 畜産課
代表者職氏名	(職名) 会長 (氏名) 小山田 久	設立年月日	昭和49年2月8日
所在地	〒 030-0822 青森市中央2丁目1番15号	電話番号	017-723-2523
HPアドレス	http://aomori.lin.gr.jp	FAX番号	017-731-1196
e-mailアドレス			

資本金・基本金等

資本金・基本金等	471,270 千円
(うち県の出資等額)	185,000 千円
(県の出資等比率)	39.3 %

設立の目的・事業の目的

畜産経営の安定向上及び安全で良質な畜産物の生産と流通に関する事業を行い、畜産の振興に寄与することを目的とする。

主な出資者等の構成（出資等比率順位順）

氏名・名称	金額（千円）	出資等比率（%）
1 青森県	185,000	39.3
2 全国農業協同組合連合会青森県本部	103,500	22.0
3 八戸農業協同組合	16,760	3.6
4 十和田おいらせ農業協同組合	15,250	3.2
5 十和田市	13,800	2.9
6 つがるにしきた農業協同組合	8,100	1.7
7 青森農業協同組合	7,500	1.6
8 ゆうき青森農業協同組合	7,150	1.5
9 三沢市	5,500	1.2
10 五所川原市	5,450	1.2

経営目標

畜産経営は、近年、経営環境が厳しく収益性が低下していることから、総合的な経営支援の充実強化を図る。
また、当協会財政基盤の安定が重要であることから、財源確保のため補助・委託事業に積極的に取り組むとともに、職員の育成強化を進める。

主要事業の概要

主要事業	決算額（千円、%）						公益・収益等の別	補助金の有無	受託収入の有無	再委託の有無
	令和元年度(2019)	割合	令和2年度(2020)	割合	令和3年度(2021)	割合				
事業1 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 (内容) 肉用牛肥育経営の収益が悪化した場合に補てん金を交付し、経営の安定を図る。	3,777,142	228.98 %	167,960	23.12 %	56,292	9.80 %	公益	有	無	無
事業2 自主防疫推進事業 (内容) 家畜伝染病の発生と蔓延防止のため予防接種を支援し、経営の安定を図る。	58,339	3.54 %	60,636	8.35 %	56,817	9.89 %	収益等	無	無	無
事業3 肉用牛経営安定対策補完事業 (内容) 繁殖雌牛の増頭の取組や高齢者等に対処する肉用牛ヘルパー組織への支援により畜産の振興を図る。	28,599	1.73 %	9,543	1.31 %	9,000	1.57 %	公益	有	無	無
上記以外	-2,214,530	-134.25 %	488,360	67.22 %	452,433	78.75 %				
全事業	1,649,549	100.00 %	726,499	100.00 %	574,542	100.00 %				

組織の状況

区分	令和2年度(2020)		令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		前年度増減	増減理由
	県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB		
役員	常勤	1	1	1	1	1		
	非常勤	14	1	14	1	15	1	監事1名から2名に増員となった。
	計	15	2	15	2	16	2	
職員	常勤	5		6		11	5	臨時職員から常勤へ昇任及び県OBを採用したことにより増加した。
	非常勤					1	1	臨時職員から非常勤へ任命換により増加した。
	臨時職員	9	2	5		4	▲1	臨時職員から常勤へ昇任したことにより減少した。
	計	14	2	11		16	2	5

役員平均年齢	69 歳
役員平均年収	- 千円

職員平均年齢	46 歳	職員の 年代別構成	20代	30代	40代	50代	60代~	勤続年数(平均)
職員平均年収	4,825 千円			3人	4人	2人	2人	

※常勤役員のみ

※常勤職員のみ（ただし、職員平均年収及び勤続年数はプロパー職員分）

2 財務の状況

(単位：千円)

項目	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕	
収支等の状況	経常収益	5,257,744	741,234	584,277	▲ 156,957	豚熱等の緊急対策支援事業が単年度事業で終了したことに伴い減額となった。
	経常費用	1,649,549	726,499	574,542	▲ 151,957	豚熱等の緊急対策支援事業が単年度事業で終了したことに伴い減額となった。
	当期経常増減額	3,608,195	14,735	9,735	▲ 5,000	豚熱等の緊急対策支援事業が単年度事業で終了したことに伴い減額となった。
	当期経常外増減額	▲ 3,600,241	▲ 4,036	129	4,165	昨年度は肉用子牛生産者補給金制度の無事戻しが行われたことにより、前年度増減額が増額となった。
	当期一般正味財産増減額	7,954	10,699	9,864	▲ 835	
	一般正味財産期末残高	104,661	115,361	125,225	9,864	
	借入金残高	5,000				
資産	資産	1,391,053	1,099,216	1,279,028	179,812	子牛・牛マルキンの生産者積立金の増加
	負債	1,286,391	983,855	1,153,803	169,948	〃
	正味財産	104,661	115,361	125,225	9,864	
県費等の受入状況	補助金		3,928		▲ 3,928	
	事業費		3,928		▲ 3,928	
	運営費（人件費含む）					
	受託事業収入	3,000	2,400	2,400		
	負担金					
	交付金					
	貸付金					
	無利子借入金による利息軽減額 (長期プライムレートによる試算額)					
	減免額（土地・施設等使用料等）					
	債務保証残高					
損失補償残高						

(単位：%)

財務分析指標	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕	
財務構造	正味財産比率	7.52	10.49	9.79	▲ 0.70	
	経常比率	318.74	102.03	101.69	▲ 0.33	
	総資産当期経常増減率	259.39	1.34	0.76	▲ 0.58	肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）の全品種の積立金（生産者）猶予のため積立金減額となった。
	県財政関与率	0.06	0.85	0.41	▲ 0.44	肥育支援対策事業が単年度事業で終了したことに伴い減額となった。
	補助金収入率	1.98	34.88	14.67	▲ 20.20	豚熱等の緊急対策支援事業が単年度事業で終了したことに伴い減額となった。
	受託等収入率	0.60	5.87	7.94	2.07	補助事業から受託事業に変更した事業があったことから増額となった。
効率性	管理費比率	1.64	3.32	4.24	0.92	長期職員の雇用により増加した。
	人件費比率	3.61	5.67	6.86	1.19	長期職員の雇用により増加した。
財務健全性	流動比率	170.11	213.59	204.26	▲ 9.33	
	借入金比率	0.36				

3 経営評価結果等への対応状況

これまでの経営評価結果等 (改善事項等)	対応状況 〔法人記入〕	左に係る県所管部局の意見・評価 〔県所管部局記入〕
本県畜産業の振興に貢献する取組について	<p>畜産農家の高齢化や担い手不足、配合飼料価格の高止まりにより、経営の合理化、生産コストの低減に向けた取り組みがもたらされている。</p> <p>本県の畜産は、会社経営の大型農場と農家経営とが両極化しており、協会は、経営の合理化、生産コストの低減を推進しつつ、農家経営にも軸足を置き、国や県等が行う経営支援対策に係る補助・受託事業等を積極的に活用し幅広い視点から総合的な指導体制の充実強化を図りながら事業展開を進める。</p>	<p>国や県等が行う経営支援、価格安定、家畜衛生対策等の補助事業や委託事業を積極的に実施し、本県の畜産振興に貢献している。</p> <p>県としても、引き続き畜産協会と連携し、経営支援及び事業の推進、家畜衛生対策の強化等に取り組む、畜産を振興していく。</p>

4 経営評価指標

(1) 法人自己評価

評価項目	対象指標 評点数	法人評価		(参考)	自己評価〔法人記入〕 (経営概況、経営上の課題・対策、得点率の増減理由等)
		評点数	得点率	前年度得点率	
目的適合性	16	16	100.00	93.75	当協会は、国や県の業務を補完する立場から、国や中央団体の各種補助・委託事業を活用した業務を行っていることから、今後も業務の効率化を図り事業の円滑な推進を行う。
計画性	32	30	93.75	90.63	中期経営計画に加え、H27年度自主的に「中期経営改善計画」を策定し、①持続可能な財政基盤の強化、②柔軟で意欲的な発想で業務執行に当たるための職員の意識づくり、③畜産経営の安定と生産性向上のための支援・指導の強化を図ることとしており、その推進に当たっては理事会及び県の意見を踏まえ、PDCAサイクルを活用して取組状況の点検と必要な見直しを講じ、着実に進めることとしている。
組織運営の健全性	40	38	95.00	92.50	当協会の行う業務は畜産の経営相談等、専門性が高いことから、職員の意欲や責任感、専門性等を高め、高度化する業務需要に柔軟かつ自律的に対応できる職員を育成するため、国及び中央団体が行う研修に積極的に参加する他、OJTを活用し内部統制などの充実を図っていく。
経営の効率性	23	20	86.96	86.96	経営状況を踏まえ、人件費の抑制に努めている。また、財政基盤の強化のため歳出抑制と歳入確保に積極的に取り組んでいる。経費節減の取組は職員に浸透しており、今後も継続していく。
財務状況の健全性	19	17	89.47	78.95	収支計算書は、昨年度に引き続き約986万円の黒字を計上した。引き続き経営の健全化に努めていくこととしている。
合計	130	121	93.08	89.23	

(2) 県所管部局評価

評価項目	項目別評価		コメント〔県所管部局記入〕
目的適合性	◎	対応等は良好	当協会は、国や県等が行う経営支援対策に係る補助事業や委託事業等を幅広く実施しており、本県畜産の総合的な支援・指導を行う畜産関係団体の中核組織として事業を展開していることから、対応等は良好とした。
計画性	○	概ね対応等は良好	中期経営計画書に基づき、経費削減を図りながら計画的に事業に取組み、黒字化を達成している。今後も引き続き経営計画の点検と見直しを行いながら、経営改善に努めることとしていることから、概ね対応等は良好とした。
組織運営の健全性	◎	対応等は良好	協会規程に基づき、定期的に内部監査を実施しているほか、コンプライアンスの確保のためマニュアルの作成やリスク管理に努めている。 また、安定的な協会運営と業務の質の向上や効率化を図るため、協会全体の業務改善を進めていることから、対応等は良好とした。
経営の効率性	○	概ね対応等は良好	適正な人件費水準を見極めながら、事業別・業務別のコスト分析や削減目標の見直しなどにより、経費削減に取り組んでいくこととしているため、概ね対応等は良好とした。
財務状況の健全性	○	概ね対応等は良好	当協会の財源の多くは、国や県等が行う経営支援対策に係る補助事業や委託事業の実施であることから、これらの事業に取り組むとともに、引き続き自主財源の確保に努めていくこととしているため、概ね対応等は良好とした。

5 総合評価

総合評価		コメント〔県所管部局記入〕 (改善事項等)
B	改善の余地あり	法人が自己評価した各経営評価は、概ね妥当なもの認められる。 2021年度は、コロナ禍においても計画どおり事業を実施しており、畜産を取り巻く状況の変化に的確に対応し、本県畜産の振興に貢献していることは評価できる。 今後も計画達成に向けて、再雇用職員から若手職員への業務配分の適正化と若手職員のスキルアップを進め、業務の質を確保することが望まれることから、B評価とした。